

2024年度 自己評価報告書

対象期間 自:2024年4月 1日
至:2025年3月31日

2025年6月23日



秋田リハビリテーション学院

◇自己点検評価報告書

- 1 基準を満たしていない
- 2 ①を満たしている
- 3 ①を満たし、②③のどちらかを満たしている
- 4 ①②③全てを満たしている

判 定 基 準			評価	摘要
(1)	基準Ⅰ－1	教育理念・目標・方針	3	
(2)	基準Ⅱ－1	学科・専攻の長	3	
(3)	基準Ⅱ－2	教員の要件	4	
(4)	基準Ⅱ－3	教員数と教科目	4	
(5)	基準Ⅱ－4	教育の質	4	
(6)	基準Ⅱ－5	教育のための予算	3	
(7)	基準Ⅱ－6	教育環境	3	
(8)	基準Ⅱ－7	教育設備	4	
(9)	基準Ⅱ－8	教材・備品	4	
(1 0)	基準Ⅲ－1	ハラスメント防止対策	4	
(1 1)	基準Ⅳ－1	入学者の選考	4	
(1 2)	基準Ⅳ－2	生活・学習支援	4	
(1 3)	基準Ⅳ－3	教育課程	4	
(1 4)	基準Ⅳ－4	教育内容	4	
(1 5)	基準Ⅳ－5	教育方法	4	
(1 6)	基準Ⅳ－6	成績評価	4	
(1 7)	基準Ⅳ－7	臨床教育	4	
(1 8)	基準Ⅳ－8	臨床実習	4	
(1 9)	基準Ⅳ－9	臨床実習施設との連携	3	
(2 0)	基準Ⅳ－1 0	臨床実習施設の条件	3	
(2 1)	基準Ⅳ－1	臨床実習施設の数と種別	4	
(2 2)	基準Ⅳ－1 2	臨床実習指導者	3	
(2 3)	基準Ⅴ－1	教育成果	4	
(2 4)	基準Ⅵ－1	社会貢献	4	
(2 5)	基準Ⅶ－1	内部質調査	4	

1 学校の教育理念および教育目標

<教育理念>

豊かな教養及び高度な専門知識と技術を身に付け、知的・倫理的な行動、判断及びコミュニケーション能力を発揮して、保健・医療・福祉分野において、持続的で健康的な文化の進展に寄与し、地域社会に貢献できる人材を育成する。

<教育目標>

教育、臨床及び実習を通じて、幅広い豊かな教養と専門基礎教育並びに医療福祉専門職に必要な、高度な知識やすぐれた技術を教授することで、対象者を理解することができ、人間性豊かで高い倫理観を持ち、保健・医療・福祉分野、特に地域及び在宅医療の場において課題の発見と問題解決能力を発揮して、対象者の立場に立って責任のある適切な理学療法を実践できる人材を育成する。

(1) 多様な価値観を理解できる誠実な人材の育成

幅広い豊かな教養教育により人間形成を促し、多様化する価値観を受容できる人材を育成する。

(2) 対象者の生きる意欲と喜びを湧き起こさせることに努力できる誠実な人材の育成

様々なニーズの中から見いだされた真のニーズに対応した理学療法を実施し、対象者の生活の質の向上と、生きる意欲を湧き起こさせる人材を育成する。

(3) 高い倫理観と問題解決能力を有する人材の育成

生じた問題に対して、修得した知識と技術を駆使し、高い倫理観を持って臨機応変に対処できる能力を有する人材を育成する。

(4) 「チーム医療」に必要な協調性のある人材の育成

高い専門性を発揮し、保健・医療・福祉分野に関わる関連職種との連携を、チーム医療の一員として、円滑に実践し、協調性を有し、リーダーシップを発揮できる人材を育成する。

(5) 情報技術を活用し、国際社会・地域社会に対応力を発揮できる人材の育成

国際社会における医療関連分野にも視野を広げ、積極的に新しい知識を導入することができるよう、自ら主体的に行動し探究することで、情報技術を活用して地域社会に貢献できる人材を育成する。

2 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

(1) 理学療法士法指定規則の改正に伴い構築した理学療法士養成教育を充実・強化し、円滑に実施する。

(2) 2024年度は第10期生を迎えることから、これまでの教育の在り方について自己評価を行い、学校評価委員会等の評価結果を踏まえてさらなる教育の質の向上に向けた体制づくりに取り組む。

3 自己点検評価報告書

(1) 基準Ⅰー1 教育理念・目標・方針

	判 定 基 準	評 価
①	教育理念・目標・方針が明文化・公表されている	3
②	アドミッション・カリキュラム・ディプロマポリシーが明文化・公表されている	
③	アセスメントポリシーが明文化・公表されている	

◇自己点検評価（該当数字を評価欄に記入）

- 1 基準を満たしていない
- 2 ①を満たしている
- 3 ①を満たし、②③のどちらかを満たしている
- 4 ①②③全てを満たしている

◇自己点検評価結果の理由

- ① 教育理念・目標・方針は明文化し公表している。
- ② アドミッション・カリキュラム・ディプロマポリシーは明文化し公表している
- ③ アセスメントポリシー単体としては整備、明文化・公表していないのが現状である

◇自己点検評価結果における課題と対応

- ・ アドミッション:「どんな学生に入学してほしいか。」
- ・ カリキュラム:「入学した学生に、何をどのように学ばせるか。」
- ・ ディプロマ:「卒業までにどのような能力を身に付けてほしいか。」以上の3つの教育方針に基づいて、最終的に「この学校が目指す、卒業時に学生が身につけているべき力。」を評価している。
- ・ アセスメント:学生の学習成果を評価するための重要な方針であり、早急に整備し、公表する。

(2) 基準Ⅱー1 学科・専攻の長

	判 定 基 準	評 価
①	学士の学位を有する者、またはそれに準ずる学識・教育・研修修了者である	3
②	修士の学位を有し、必要な教育・研修修了者である	
③	博士の学位を有し、10年以上の教育経験と必要な教育・研修修了者である	

◇自己点検評価（該当数字を評価欄に記入）

- 1 基準を満たしていない
- 2 ①を満たしている
- 3 ①を満たし、②③のどちらかを満たしている
- 4 ①②③全てを満たしている

◇自己点検評価結果の理由

- ・ 現在③を満たすことができていない。

◇自己点検評価結果における課題と対応

(3) 基準Ⅱー2 教員の要件

	判 定 基 準	評 価
①	指定規則で定める基準が遵守されている	4
②	専任教員は全員が協会員(JPTA・JAOT・JAS)である	
③	専任教員は全員が修士以上の学位を有し、必要な教育・研修修了者である	

◇自己点検評価 (該当数字を評価欄に記入)

- 1 基準を満たしていない
- 2 ①を満たしている
- 3 ①を満たし、②③のどちらかを満たしている
- 4 ①②③全てを満たしている

◇自己点検評価結果の理由

- ① 専任教員は臨床経験5年以上の経験と実習指導の経験を有している。
- ② 全員が公益社団法人 日本理学療法士協会の会員である。
- ③ 全員が修士以上の学位を有し、必要な教育・研修修了者である。

◇自己点検評価結果における課題と対応

(4) 基準Ⅱー3 教員数と教科目

	判 定 基 準	評 価
①	指定規則で定める教員数が確保され、実習調整者が配置されている	4
②	担当科目に関連する研究業績のある教員が配置されている	
③	指定規則の定数を超える専任教員が配置されている	

◇自己点検評価 (該当数字を評価欄に記入)

- 1 基準を満たしていない
- 2 ①を満たしている
- 3 ①を満たし、②③のどちらかを満たしている
- 4 ①②③全てを満たしている

◇自己点検評価結果の理由

- ① 指定規則で定める教員数6名に対して7名を確保し、指定規則による実習調整者を1名配置している。
- ② 担当科目に関連する研究業績を有する教員が配置されている。
- ③ 7名の専任教員が配置され指定規則定数をクリアしている。

◇自己点検評価結果における課題と対応

(5) 基準Ⅱー4 教育の質

	判 定 基 準	評 価
①	教育・研究・研修規程が整備され、専任教員の業績が公表されている	4
②	授業評価及びFD・SDが実施され、結果が公表されている	
③	教育の質の向上に向けた研究・研修への積極的な取り組みがみられる	

◇自己点検評価（該当数字を評価欄に記入）

- 1 基準を満たしていない
- 2 ①を満たしている
- 3 ①を満たし、②③のどちらかを満たしている
- ④ ①②③全てを満たしている

◇自己点検評価結果の理由

- ① 教育・研究等規程を公表し、教員個々の業績についても公表している。
- ② 授業評価はシラパスに記載できるよう検討している。また、厚労省や労働局、秋田県職員による研修授業カリキュラムを実施しHPに公表している。
- ③ コア学園姉妹校（医療系）と組織的な研修を実施し、専門性の向上と教育指導力の強化を継続して検討している。

◇自己点検評価結果における課題と対応

- ・ 専任教員の業績については、引き続きHPに記載するとともに、コア学園としてより親しみやすいHPの構築を検討していく
- ・ 授業の半分経過時点で授業評価を実施することにより、後半の学生要望に応えた授業構成となるよう目標を設定し具体的に協議していく。

(6) 基準Ⅱー5 教育のための予算

	判 定 基 準	評 価
①	入学料・授業料・実習費等は適当な額である	3
②	教育上必要な機械器具や図書購入予算が明示され、計画的に執行されている	
③	研究活動のための外部資金導入の努力を行っている	

◇自己点検評価（該当数字を評価欄に記入）

- 1 基準を満たしていない
- 2 ①を満たしている
- ③ ①を満たし、②③のどちらかを満たしている
- 4 ①②③全てを満たしている

◇自己点検評価結果の理由

- ① 授業料等は東北における私立の専門校の中では最も安価な金額である
- ② 予算は当初予算・補正予算の計上を行い現状に沿って計画的に執行している他、教員が評議員となり執行を確認している。
- ③ 外部資金の導入実現に向けて、県主管課、系列校と連携しながら認定校化事務を進める。

◇自己点検評価結果における課題と対応

- ① 令和7年度には11期生を迎えることから、中・長期的ビジョンの策定に向けて委員会等の設立を検討する
- ② 医療介護総合確保促進法に基づく秋田県計画 医療従事者の確保に関する事業への申請の他、私立専修学校職業実践専門課程の認定に向けて準備を進めていく

(7) 基準Ⅱー6 教育環境

	判 定 基 準	評 価
①	教育目的達成のための環境が整備されている	3
②	校地校舎等の学修環境の整備と適切な管理・運営が実施されている	
③	教育環境の確保・充実に向けた中長期的計画が策定されている	

◇自己点検評価（該当数字を評価欄に記入）

- 1 基準を満たしていない
- 2 ①を満たしている
- ③ ①を満たし、②③のどちらかを満たしている
- 4 ①②③全てを満たしている

◇自己点検評価結果の理由

③ 教育環境における中長期計画等の策定に向けて、外部有識者を委員とした教育課程編成委員会を設立し対応する。

◇自己点検評価結果における課題と対応

- ・ 開学(2015年4月)から10年を迎え、将来像「(仮称)ARC教育ビジョン」を策定し教育環境の充実を目指す。

(8) 基準Ⅱー7 教育設備

	判 定 基 準	評 価
①	ガイドラインで定める教室及び実習室が整備されている	4
②	教員室(研究室)及び個別指導の場が確保されている	
③	教育研究内容に対応した機材等が整備されている	

◇自己点検評価（該当数字を評価欄に記入）

- 1 基準を満たしていない
- 2 ①を満たしている
- 3 ①を満たし、②③のどちらかを満たしている
- ④ ①②③全てを満たしている

◇自己点検評価結果の理由

- ① ガイドラインで定める教室・実習室は整備されている。
- ② 教員室が確保されているが、個別指導を要する学生等が複数の場合、スペースは十分とはいえないのが現状である。
- ③ 呼気ガス分析器(運動負荷量)、運動解析装置、筋機能解析装置の上位機種が整備され活用されている。

◇自己点検評価結果における課題と対応

- ・ 個別指導が必要と判断される学生が少しずつ増えてきていることから、小会議室等の整備の必要性を感じている。
- ・ 開学から10年を経過し、外部の意見も参考に、学院の方向性を見極めながら、老朽化した設備機器の更新や施設の改修計画等の立案にむけ対応する。

(9) 基準Ⅱ－8 教材・備品

	判 定 基 準	評 価
①	教育上必要な教材・備品及び専門図書・雑誌が必要数確保されている	4
②	適切な規模の図書室(館)を有し、十分な学術情報資料が確保されている	
③	講義・演習等に必要なIT教育機器や文献検索システムが整備され、適切に運用されている	

◇自己点検評価 (該当数字を評価欄に記入)

- 1 基準を満たしていない
- 2 ①を満たしている
- 3 ①を満たし、②③のどちらかを満たしている
- ④ ①②③全てを満たしている

◇自己点検評価結果の理由

- ① 開学当初より必要文献及び雑誌の定期購読を行っている。
- ② 文献検索システム(メディカルオンライン)を法人契約し学生がいつでも活用できる環境がある。
- ③ 医学映像教育資料が利用できるなどICT環境を整備している。

◇自己点検評価結果における課題と対応

(10) 基準Ⅲ－1 ハラスメント防止対策

	判 定 基 準	評 価
①	ハラスメントの規程が整備され、公表されている	4
②	ハラスメント防止を目的とした研修会が定期的実施されている	
③	全教職員、臨床実習施設職員、保護者等への周知啓発が実施されている	

◇自己点検評価 (該当数字を評価欄に記入)

- 1 基準を満たしていない
- 2 ①を満たしている
- 3 ①を満たし、②③のどちらかを満たしている
- ④ ①②③全てを満たしている

◇自己点検評価結果の理由

- ① 学校法人コア学園 ハラスメントの防止及び対応に関する規程 を公表している。
- ② 教職員会議等で理事長、副理事長からハラスメント防止対応を随時教示されている他、毎年研修会を開催している。
- ③ 毎年開催するSV会議で議題とするなど周知している他、ガイダンスや保護者(家族)説明会で周知啓発している。
学園としてカウンセラーを配置し、学生や教職員に対するカウンセリング体制を整備している。

◇自己点検評価結果における課題と対応

(11) 基準Ⅳー1 入学者の選考

	判 定 基 準	評 価
①	選考要領が整備され、公表されている	4
②	学則に定められた学生の定員が守られている	
③	アドミッションポリシーに基づいた選考が行われている	

◇自己点検評価 （該当数字を評価欄に記入）

- 1 基準を満たしていない
- 2 ①を満たしている
- 3 ①を満たし、②③のどちらかを満たしている
- 4 ①②③全てを満たしている

◇自己点検評価結果の理由

- ① 募集要項に整備し公表している。
- ② 学生数は定員160人の定員内である。
- ③ 学力に加え、個人と集団2種の面接試験において意欲を確認している。

◇自己点検評価結果における課題と対応

- ・ 2026年度入学者から新しく資格特待制度を設け、入学金免除の支援を行うこととしている。

(12) 基準Ⅳー2 生活・学習支援

	判 定 基 準	評 価
①	生活・学修支援体制が整備されている	4
②	生活・学修支援に関する学生の意見・要望を把握・分析し適切に実施されている	
③	障がいのある学生や留学生に対する支援体制が整備されている	

◇自己点検評価 （該当数字を評価欄に記入）

- 1 基準を満たしていない
- 2 ①を満たしている
- 3 ①を満たし、②③のどちらかを満たしている
- 4 ①②③全てを満たしている

◇自己点検評価結果の理由

- ① 学生支援部を設けて、学生生活に関する相談窓口としている。
- ② 適宜学生アンケートを実施し状況を把握している。
- ③ バリアフリー、上級生によるティーチングアシスタント、タブレットを使用したテイクノートなどの学修支援体制がある。

◇自己点検評価結果における課題と対応

- ・ 2階建て校舎でエレベーターは設置していないが、障がいを持った学生が入学した場合は、その学年はすべて1階で授業ができる環境である。

(13) 基準Ⅳ-3 教育課程

	判 定 基 準	評 価
①	指定規則、ガイドラインに定められているカリキュラムが整備されている	4
②	講義概要、学生便覧が整備・公表され、適正に運用されている	
③	教育課程を可視化するなど、修学向上への工夫・改善が見られる	

◇自己点検評価（該当数字を評価欄に記入）

- 1 基準を満たしていない
- 2 ①を満たしている
- 3 ①を満たし、②③のどちらかを満たしている

④ ①②③全てを満たしている

◇自己点検評価結果の理由

- ① 指定規則やガイドラインに定められたカリキュラム構成である。
- ② シラバス、学生便覧を整備し公表している。
- ③ 教育課程をカリキュラム構図としてまとめ、運用している。

◇自己点検評価結果における課題と対応

(14) 基準Ⅳ-4 教育内容

	判 定 基 準	評 価
①	改正カリキュラムが適正に運用されている	4
②	定期的カリキュラムの検討見直しが行われている	
③	特色ある教育プログラムを有している	

◇自己点検評価（該当数字を評価欄に記入）

- 1 基準を満たしていない
- 2 ①を満たしている
- 3 ①を満たし、②③のどちらかを満たしている

④ ①②③全てを満たしている

◇自己点検評価結果の理由

- ① 改正カリキュラムに沿った内容で運用している。
- ② 定期的なカリキュラムの見直しを行っている。
- ③ 多学年共同授業の実践や放送大学との教育連携協定によるダブルスクール制度、チーム医療・多職種連携共同学習授業を行っている。

◇自己点検評価結果における課題と対応

(15) 基準Ⅳ-5 教育方法

	判 定 基 準	評 価
①	講義概要に教育方法を明記し、適切に運用されている	4
②	講義・演習・実習が効果的に組み合わせられている	
③	授業方法の工夫・開発に取り組んでいる	

◇自己点検評価（該当数字を評価欄に記入）

- 1 基準を満たしていない
 2 ①を満たしている
 3 ①を満たし、②③のどちらかを満たしている
 4 ①②③全てを満たしている

◇自己点検評価結果の理由

- ① シラバスに、授業目的・到達目標・授業計画・成績評価を明記し運用している。
 ② 講義・演習・実習を段階的に設定し、学習効果が得られるようにし、シラバスに区分を明記している。
 ③ 多学年共同授業の実践やオンライン授業における視点カメラの利用などの工夫を行っている。

◇自己点検評価結果における課題と対応

--

(16) 基準Ⅳ-6 成績評価

	判 定 基 準	評 価
①	評価基準、方法を明記した文書を有している	4
②	授業科目内容に合致した(客観的)評価方法により実施されている	
③	単位認定、進級・卒業認定、修了認定基準を適切に定め、厳正に適用されている	

◇自己点検評価（該当数字を評価欄に記入）

- 1 基準を満たしていない
 2 ①を満たしている
 3 ①を満たし、②③のどちらかを満たしている
 4 ①②③全てを満たしている

◇自己点検評価結果の理由

- ① 各科目の成績評価基準や方法はシラバスに明記している。
 ② 各科目で評価基準を明確にして成績評価を行っている。
 ・筆記試験、レポート、口頭試問、実技試験、出席率、受講態度及び評価内容を明確にしている。
 ③ シラバスへの成績評価方法の記載、試験規程、進級・卒業認定基準を公開している。

◇自己点検評価結果における課題と対応

--

(17) 基準Ⅳー7 臨床教育

	判 定 基 準	評 価
①	指定規則に基づいた臨床教育が計画・実施されている	4
②	OSCE(客観的臨床能力試験)を導入し、評価・単位認定を行っている	
③	先進的な臨床教育プログラムを取り入れている	

◇自己点検評価 (該当数字を評価欄に記入)

- 1 基準を満たしていない
- 2 ①を満たしている
- 3 ①を満たし、②③のどちらかを満たしている
- 4 ①②③全てを満たしている

◇自己点検評価結果の理由

- ① 指定規則に基づくシラバスにより計画・実施している。
- ② OSCEの導入はシラバスに定め評価・単位認定を行っている。
- ③ MTLD(生活行為向上マネジメント)、シミュレーション教育、チーム医療教育(多職種連携教育)、地域・在宅リハビリテーションに特化したプログラム、ICTを活用した臨床実習支援システム及び専門性の深化とキャリアパスを見据えた教育を行っている。

◇自己点検評価結果における課題と対応

- ・ 今後、チーム医療教育(多職種連携教育)を発展させていきたい。

(18) 基準Ⅳー8 臨床実習

	判 定 基 準	評 価
①	指定規則、ガイドラインで定める基準が遵守されている	4
②	臨床実習が適切な年次に配置され偏りなく実施されている	
③	特色ある臨床実習プログラムを取り入れている	

◇自己点検評価 (該当数字を評価欄に記入)

- 1 基準を満たしていない
- 2 ①を満たしている
- 3 ①を満たし、②③のどちらかを満たしている
- 4 ①②③全てを満たしている

◇自己点検評価結果の理由

- ① 指定規則、ガイドラインの基準を遵守し実施している。
- ② 1年次:基礎実習、2年次:地域リハビリテーション実習、3年次:評価実習、4年次:臨床実習を配置し偏りなく実施している。
- ③ 実習指導者の評価だけではなく、細分化した自己評価を合わせて行うことで自己課題を明確化させ、次のステップに反映できるようなプログラムとしている。

◇自己点検評価結果における課題と対応

(19) 基準Ⅳ－9 臨床実習施設との連携

	判 定 基 準	評 価
①	定期的に臨床実習指導者会議を開催し、議事録が共有されている	3
②	実習の前後を含め施設と密な連携が取られている	
③	専任教員が適時臨床実習に参加し、指導している	

◇自己点検評価（該当数字を評価欄に記入）

- 1 基準を満たしていない
- 2 ①を満たしている
- 3 ①を満たし、②③のどちらかを満たしている
- 4 ①②③全てを満たしている

◇自己点検評価結果の理由

- ① 毎年1回、臨床実習指導者会議を開催し議事録を各実習先に郵送している。
- ② 臨床実習指導者会議の際には、指導者と学生の顔合わせを行っているほか、学生紹介データを各実習先と共有している。
- ③ 臨床実習中の学生を訪問し、専任教員による臨床実習への参加等を実施している他、電話等での情報交換を密にしている。

◇自己点検評価結果における課題と対応

- ・ 専任教員の臨床実習での指導については、今後の検討課題である。

(20) 基準Ⅳ－10 臨床実習施設の条件

	判 定 基 準	評 価
①	指定規則、ガイドラインに定められた臨床実習が実施されている	3
②	臨床実習施設としての設備・スタッフが備えられている	
③	協会認定または病院機能評価等の認定施設が50%以上確保されている	

◇自己点検評価（該当数字を評価欄に記入）

- 1 基準を満たしていない
- 2 ①を満たしている
- 3 ①を満たし、②③のどちらかを満たしている
- 4 ①②③全てを満たしている

◇自己点検評価結果の理由

- ① 新規臨床実習受入先施設の承認申請をするにあたっては、指定規則等に定める要件を確認し知事の承認を得ている。
- ② 指定規則等に定める設備・スタッフの要件を確認し、臨床実習施設としての承認を得ている。
- ③ 2024年度の病院機能評価等の認定施設は、55施設中21施設で38. 2%である。

◇自己点検評価結果における課題と対応

- ・ 日本医療機能評価機構の病院機能評価結果の情報提供(HP)によると2025年5月現在の全病院数における認定病院数は、2147/8097病院数 26.5%となっている。

(21) 基準Ⅳ－11 臨床実習施設の数と種別

	判定基準	評価
①	指定規則、ガイドラインで定める施設基準が遵守されている	4
②	各障がい・病期・年齢層を偏りなく対応できる能力を培う実習施設が確保されている	
③	主たる臨床実習施設が確保されている	

◇自己点検評価（該当数字を評価欄に記入）

- 1 基準を満たしていない
- 2 ①を満たしている
- 3 ①を満たし、②③のどちらかを満たしている

4 ①②③全てを満たしている

◇自己点検評価結果の理由

- ① 臨床実習施設は、1/2以上は病院や診療所で行うことができるように実習施設を確保している。
- ② 各障がい、病期・年齢層が経験できる臨床実習施設を偏りなく確保できている。
- ③ 協定病院や施設として協定を結んでいる病院等はないが、例年受け入れていただける実習施設を8割程度確保している。

◇自己点検評価結果における課題と対応

- ・ 同窓生が指導者となれる年数を迎え、同窓生と一体となった実習施設開拓を目指したい。

(22) 基準Ⅳ－12 臨床実習指導者

	判定基準	評価
①	指定規則に示す要件を満たすものである	3
②	上記該当で臨床経験10年を超える指導者が30%以上	
③	上記①該当者で専門認定有資格者が30%以上	

◇自己点検評価（該当数字を評価欄に記入）

- 1 基準を満たしていない
- 2 ①を満たしている
- 3 ①を満たし、②③のどちらかを満たしている**

4 ①②③全てを満たしている

◇自己点検評価結果の理由

- ① 臨床実習指導者の臨床経験年数と臨床実習指導者講習会の受講修了を確認している。
- ② 2021年度の臨床実習においては、23施設中17施設が臨床経験10年を超える指導者が対応し73.9%以上であったことから、現状においても30%以上は確保している。
- ③ 2023年度末集計では、秋田県における認定理学療法士は109人、専門理学療法士41人が配置されている。

◇自己点検評価結果における課題と対応

(23) 基準Vー1 教育成果

	判 定 基 準	評 価
①	教育成果の点検・評価結果が学生にFBされている	4
②	学業達成率が80%以上である	
③	新卒者の国家試験合格率が全国平均以上である(過去3年間の平均値)	

◇自己点検評価 (該当数字を評価欄に記入)

- 1 基準を満たしていない
- 2 ①を満たしている
- 3 ①を満たし、②③のどちらかを満たしている
- ④ ①②③全てを満たしている

◇自己点検評価結果の理由

- ① 教育成果の点検・評価結果は学生にFBしている。各成果の思わしくない学生については家族との面談等を行っている。
- ② 理学療法士国家試験の受験資格を学内判定する授業においては、全員が単位を取得したことから、達成率80%以上である。
- ③ 2022年度～2024年度の本学院国家試験合格率は93%、全国新卒合格率は95%であり、全国平均を下回る。

◇自己点検評価結果における課題と対応

(24) 基準VIー1 社会貢献

	判 定 基 準	評 価
①	個人レベルでの活動が行われている	4
②	学科・専攻レベルで実施されている	
③	学校養成施設レベルで組織的に取り組まれている	

◇自己点検評価 (該当数字を評価欄に記入)

- 1 基準を満たしていない
- 2 ①②③のうち一つを満たしている
- 3 ①②③のうち二つを満たしている
- ④ ①②③全てを満たしている

◇自己点検評価結果の理由

- ① 個人レベルでの活発な活動が行われている。
- ② 公開講座を毎年開催し、地域住民と交流している。
- ③ 秋田内陸縦貫鉄道(株)とタイアップし、列車乗車中の身体機能の維持改善プログラムを作成し、全国大会で発表した他、地域包括支援センター事業への学生の参加やスペシャルオリンピックス日本・秋田への協力等、組織的な活動を行っている。

◇自己点検評価結果における課題と対応

(25) 基準Ⅶー1 内部質調査

	判 定 基 準	評 価
①	第三者による外部評価を受審し、結果を公表している	4
②	定期的に自己点検評価を実施し、課題改善に努めている	
③	学部・学科・専攻全体のPDCAサイクルの確立とその活用が図られている	

◇自己点検評価（該当数字を評価欄に記入）

- 1 基準を満たしていない
- 2 ①を満たしている
- 3 ①を満たし、②③のどちらかを満たしている
- 4 ①②③全てを満たしている

◇自己点検評価結果の理由

- ① 2023年4月1日～2028年3月31日を有効期間として、リハビリテーション教育評価機構による認定養成施設である。
- ② 毎年、自己点検評価を実施し、学校評価委員会への報告等により課題改善に努めている。
- ③ 週1回の学科会議や、月1回理事長主催の教職員会議において、各部門からの課題を協議し、PDCAサイクルを意識した課題解決策を提案するなど活用している。

◇自己点検評価結果における課題と対応